

O022-P14

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

世界ジオパークで糸魚川の博物館はどう変わったか How did Global Geopark change Itoigawa municipal museum?

宮島 宏^{1*}

Hiroshi Miyajima^{1*}

¹ フォッサマグナミュージアム

¹ Fossa Magna Museum

はじめに 新潟県糸魚川市美山公園にあるフォッサマグナミュージアム(FMM)は、1996年4月に開館した市立の博物館で、地域の地質を中心に、フォッサマグナの発見者ナウマン、世界の岩石鉱物化石を展示している。2011年2月までに94万人の来館者があり、教育と観光の両面で重要な役割を担ってきた。また、学芸員によって地域の地質学的研究がおこなわれ、新露頭、新種化石、新鉱物などの発見があった。FMMは、2009年に日本初の世界ジオパーク(GGN)に認定された糸魚川ジオパーク(IGP)においても、展示・教育・研究・資料保管の中核施設として位置づけられている。今回は、今日までのIGP活動の中でFMMの諸活動がどう変化したかについて報告する。

展示活動 当初から資料名と産地の英語を併記していたが、英語の解説プレートを追加した。音声ガイドを新規導入し、主要展示物について日本語、英語、中国語、韓国語の4か国で解説するようにした。企画展示やイベントなど多目的に利用していたふるさと展示室を、無料でジオパークやIGPについての基礎的な学習やジオツアーのための情報収集ができる場所にした。

教育普及活動 主としてFMMを会場として、毎月1回おこなってきた地球科学セミナーという普及講演会をやめ、要望に応じて出向いて公民館などで講演を行う出前講座方式に改めた。講演内容はIGPの総論だけでなく、地域性のあるものとし、地質学以外の要素も盛り込んだ。FMMを会場とするよりも多くの参加者があり、地域に出向くことにより地域に長年暮らしている人から興味深い情報も得ることができた。地学ハイキングはジオツアーに改称し、動植物、歴史など地質以外の見学要素を盛り込むようにした。多数の講演会や現地見学会により、学芸員の解説スキルを向上させることができた。

入館者 2008年度の46,411人から2009年度は59,591人になり、前年比128%という大きな伸びを示した。2010年度は2011年1月末現在55,475人でほぼ前年度並みである。ジオツーリストと思いきりリュックサックを持つ入館者も増えている。この増加はジオパークと高速道路ETC割引の両方の効果であろう。

ミュージアムショップ 鉱物化石標本、天然石アクセサリー類の売れ行きが好調であることから2008年1月にショップを増築した。しかし、2009年7月のGGN現地審査の際に、審査員からIGPの組織に関連する施設での地質関連物産(標本、天然石加工品)の販売は不可という指摘を受け、GGN認定後、在庫の処分をおこない、2010年7月末に標本販売を完全に中止した。標本・天然石アクセサリー類はショップの人気商品であったので、中止により2010年度のショップ収入は、2011年1月末現在で前年から約600万円の減となっている。ショップではGGNのルールに抵触しない各種の商品を新たに導入しているが、標本類の販売減を上回することはできずにいる。なお、糸魚川産ヒスイの販売は伝統的なものとしてGGNの認可を得ている。GGNで地質関連物産が禁止されている理由は、採集が地質標本の滅失を招き、海外では地域住民に過酷な労働を強いているというものである。教育・研究の目的を持つ実物標本であってもGGNでは販売不可である。しかしながら実物の標本で子どもたちの化石や鉱物への興味が増し、『ジオ』の普及につながることで、標本や採集がきっかけで専門家になった者も少なくないことも忘れてはならない。さらに石灰岩鉱山産の化石のショップでの販売は不可で、同じ石灰石から作られたセメントの販売は可、鉱山から産出した柘榴石や粘土鉱物の標本は不可で、それらから作られた紙ヤスリや陶器の販売は可というように一般の人にはやや理解しにくい部分がある。

イベント ふるさと展示室は多目的に利用されていた展示室だった。広いガラス窓から庭園と日本海、能登半島を望む開放的な空間で、来館者が休息、飲食できる憩いの場所にもなっていたが、同展示室を常設のIGP展示室にしたことから、車椅子利用者向けの説明のほか、夏季特別展、市民の演奏会、物品販売などのイベントができなくなった。特に正月、黄金週間、お盆に行っていた鉱物化石市場という展示即売会は、学芸員が対面式で鉱物や化石について説明しながら販売をおこなうもので、来館者に鉱物化石の面白さや見方をお伝えできるほか、学芸員も接客を学ぶ貴重な機会であったが、GGNでの標本販売のルールに従い2010年1月以降は中止された。

調査研究収蔵活動 IGP に関係する普及講演, 視察対応, 現地案内, ガイド養成, 視察案内, 解説板パンフレット作成などや, 日本のジオパーク振興のための会議出席や出張講演などの業務により, 博物館諸活動に学芸員が関わる時間が減った。学芸員が不在のことも多くなり, 来館者への案内, 鑑定などのサービスの低下を招いている。また, IGP 業務の増加により, 学芸員が地域の地質学的な研究に費やす時間が少なくなることで, IGP 以外の分野の学会発表や論文執筆が低調になり, 収蔵品の整理活動も停滞気味となっている。

キーワード: 糸魚川ジオパーク, 博物館, 入館者数, フォッサマグナミュージアム, ミュージアムショップ, 標本の販売
Keywords: Itoigawa geopark, museum, number of visitors, Fossa Magna Museum, museum shop, sales of specimen